SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

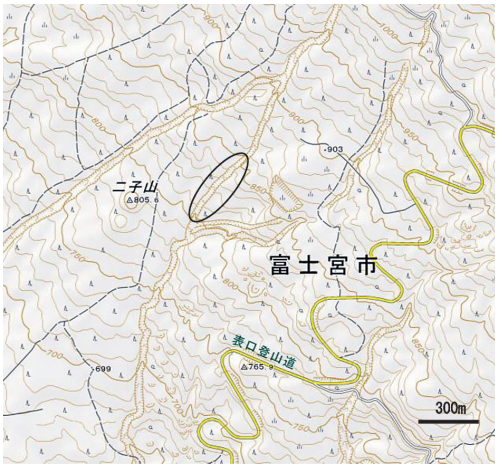
E028　富士山の火砕流で蒸し焼きになった直立炭化樹幹群（静岡県GEO DATA（23）：地学散歩（102））

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-02-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 北垣, 俊明 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00028591

E028　富士山の火砕流で蒸し焼きになった直立炭化樹幹群



流下した火山岩巨礫を堰き止める直立炭化樹幹（スケール折尺1m）．北垣ほか（2007）



国土地理院　地理院地図（電子国土Web）

富士山南西斜面の風祭川沢筋には，火山岩巨礫を含む火山砕屑物層が分布する．標高 800～950 m付近の沢筋には，わずか 400m の区間に少なくとも 6 本の直立炭化樹幹と，多くの非直立炭化材が集積し同層に埋没している．直立炭化樹幹は露出部だけで最大長 3m，直径 90cm ほどある．その中には下位に根を張る個体や，上流よりもたらされた巨礫を堰き止めたまま炭化した直立樹幹も見られる．これらは現地性であることを示している．炭化した樹木にはヒノキ属が多く含まれ，モミ属やネズコなどの針葉樹以外には，カエデ属，クリ，ケヤキ，シラキなどの広葉樹も見られる．炭化材の炭素年代は 4130 ± 50yBP である（北垣ほか，2007）．富士山の同標高には温帯に対比される原生林があるが，現在とほぼ変わらない森林が約 4100 年前の縄文中期にもあったことが分かる．この直立炭化樹幹群は，当時の富士山の森林が約 4100 年前に発生した火砕流の火山砕屑物に覆われ蒸し焼きになったことを示唆している点で重要である．また，現地性を示す大型の直立炭化樹幹がまとまって確認できる場所は少なくとも富士山麓にはなく，自然遺産としても貴重と考える．（北垣俊明）

引用文献

北垣俊明・堀内一利・山本玄珠・輿水達司・内山 高（2007）：富士火山南西斜面の風祭川上流に見つかった直立炭化木群．地球科学，61, 453-462.